

医師、援助隊現地入り

熊本地震

断続的な強い揺れで被害が拡大する熊本地震を受け、県内からは16日、前日までの先発隊に加え、災害派遣医療チーム(DMAT)や緊急消防援助隊員、県警の緊急災

患者搬送や捜索 DMAT 県警など

害警備隊員らが次々と現地入りした。百貨店などは募金活動を相次ぎスタートさせたほか、救援物資を届けようと自治体や民間の動きも活発化。被災地一帯に展開する県関係企業への影響が懸念される中、「支援の輪」が広がりをみせている。

県医療推進課によると、治療の優先順位をと、DMATは16日、決めるトリアージや応急処置に当たった。川崎市、岡山大病院(同) 崎医科大付属病院(倉敷市)はドクターヘリ病院が各1チーム、計1機を出動させ、救急49人を派遣。熊本赤十字病院(熊本市)に参集

岡山赤十字病院から



被災地への出発準備をする緊急消防援助隊員ら。津山圏域消防組合消防本部



被災地で使う医療品を確認する救護班員ら。岡山赤十字病院

は、これとは別に、日本赤十字社県支部が編成した医師、看護師ら8人による緊急救護班が、医療品などの物資を車両2台に積み込んで出発。班員の土居正明・県支部事業推進係長は「強い揺れが続く不安の中で生活している被災者の心に寄り添う活動をしたい」と話した。

消防関係では岡山、倉敷、津山市など県内全14の消防局・消防本部から緊急消防援助隊56隊、計183人が車両54台、消防ヘリ1機とともに出勤。熊本県益城町などで順次、被



被災地へ毛布や非常食などの救援物資を届ける動きが16日、県内で広がった。岡山市は、広域・大規模災害時における指定都市市長会行動計画に基づき、熊本市へ、

毛布、非常食発送 岡山市

被災地へ毛布や非常食などの救援物資を届ける動きが16日、県内で広がった。岡山市は、広域・大規模災害時における指定都市市長会行動計画に基づき、熊本市へ、

毛布1万6千枚、粉ミルク3万3千袋、紙おむつ(大人用、子ども用)6万3800枚、トイレレットペーパー1万4千ロール、生理用品7560枚、ブルーシート200枚、ごみ袋2万枚、飲料水(500ミリ入りペットボトル)4800本、アルファ化米2千食、哺乳瓶3000本を送ることを決定。

この日は備蓄している旧大井小学校(岡山市北区大井)で市職員ら11人がチャーターした大型トラック2台分の物資を積み込んだ。残りは17日以降に順次発送。熊本県民

大型トラックに救援物資を積み込む岡山市職員ら。同市北区大井、旧大井小学校

旭川荘療育・医療センター(岡山市北区祇園)は16日、障害者や高齢者用に軟らかく加工した米やおかずなど、備蓄している非常食約750食分と飲料水(2リットル入りペットボトル)3000本の配達準備を整えた。日本重症児福祉協会からの要請があれば、速やかに被災地の障害児・者施設に送る。

日赤県支部は同日、備蓄していた毛布3千枚をトラックなどで被災地に送った。